環境白書の刊行にあたって

世界気象機関（WMO）は、2024年は世界の年間平均気温が産業革命前の水準を1.5度以上上回る最初の年となったとする報告書を発表しました。前年の2023年を0.1℃ほど上回り、２年連続で過去最高を更新するなど、地球温暖化の加速が浮き彫りになっています。これは、私たちの暮らす群馬県においても例外ではなく、県内の年間平均気温は、2023年に県内13の全ての観測地点で過去最高を記録しましたが、翌年の2024年には8地点で記録を更新しています。

地球温暖化は、気象災害の増加にとどまらず、動植物の分布や生息地に変化を引き起こし、生態系のバランスを乱すことで、生物多様性の損失につながるおそれがあります。

こうした状況の中、群馬県では2030年までに生物多様性の損失を止め、回復軌道にのせるため、2024年12月に都道府県として初めて「ネイチャーポジティブ（自然再興）宣言」を行いました。ネイチャーポジティブ実現のためには、単に自然を守るだけでなく、社会・経済全体が生物多様性の保全に貢献するような「社会変革」が不可欠です。県民・企業・行政が一体となって、生物多様性と経済活動の好循環を実現することを目指します。

環境の未来を切り拓く力強い一歩を踏み出すため、私たち一人ひとりが変化の担い手となり、群馬からネイチャーポジティブの実現に向けた挑戦を力強く進めていく必要があります。

この「環境白書」は、群馬県の環境全般の現状を明らかにし、多岐にわたる環境問題の解決に向けた取組の実績及び2025年度に講じる施策についてまとめたものです。県民の皆様が本書を通じて、群馬県の環境の現状や将来に関心を持ち、群馬県環境基本計画で定める将来像「豊かで持続的に発展する環境県ぐんま」の実現に向けた行動を始めるきっかけにしていただければ幸いです。

2025年９月

群馬県知事　山本一太